

変わってしまったおばあちゃん

よしおくんの近所に、ひとりぐらしのおばあさんがすんでいます。いつもニコニコしていて、よしおくんが小さい頃から「かわいいね。おりこうさんだね。」とやさしく声をかけてくれるおばあさんでした。時々はおかしをもらうこともありました。よしおくんも、「おとなりのおばあちゃん」と言って、家に遊びに行ったり、旅行のおみやげを持って行ってあげたりしていました。小学校に入学した時は、「おとなりのおばあちゃんといっしょに写真をとりたい。」とお父さんやお母さんに言って、学校の桜の木の下でならんで写真をとったこともありました。

今年も桜の花が咲いたらおとなりのおばあちゃんと家族みなでお花見しよう、約束をしていた時のことです。とつぜん、新型コロナウイルスという病気がはやり始めたのです。このウイルスは、人から人にうつりやすい、という特徴があり、今年になって、あつという間に世界中に広がり始めました。何百万人ものがこのウイルスに感染し、何十万人ものが命を奪われる病気でした。特に、お年寄りが感染すると、命を落とすことも多い病気です。新しいウイルスなので、それを予防したり治療したりする薬がまだありません。そして、誰がウイルスをもっているのかもすぐには分からないため、いつ、どこで感染するかも分かりません。そのため、世界中の人が、マスクをしたり手洗いやうがいをしたりするようになりました。外に出るのを我慢して人と近づきすぎない生活をするようにもなりました。日本でも、子どもから大人までみんなが、ウイルスに感染しないように気をつける生活が続き、よしおくんの家でも、おとなりのおばあちゃんとのお花見をやらずに過ぎていました。

そんなある日、お母さんとお父さんが「おとなりのおばあちゃんは、どうしているかしら。このごろぜんぜん顔を見ないけれど、お変わりないかしら。」と話していました。よしおくんのお父さんはお医者さんで、お母さんは看護師さんです。だからおばあちゃんのことが気になったのです。よしおくんも、学校がずっとお休みで、あまり外に出ていなかったためおばあちゃんに会っていませんでした。そこで、久しぶりにおとなりのおばあちゃんの家に行くことにしました。

ところが、いつもならニコニコしながら外まで迎えに出て来てくれたおばあちゃんが、今日はぜんぜん出てきません。それどころか、インターホンからおばあちゃんのどなるような声がしたのです。「来てくれても、会わないよ！。お父さんとお母さんは、病院に勤めてるんだろ！コロナにかかっているかもしれないから、もう、来ないで！。」

それっきり、おとなりのおばあちゃんの声は、聞こえてきませんでした。よしおくんは、何が起きたのか、意味がわかりませんでした。でも、走って家に帰る間に、すぐく腹が立ってきてしかたありませんでした。おばあちゃんがいつべんに大嫌いになりそうでした。家に帰ってお父さんに話をする、「おばあちゃんは、自分が感染するのがこわくて、ついよしおに、その不安な気持ちをぶつけてしまったんだね。悪気はないんだよ。しばらく、見守ってあげようね。」と少し悲しそうな顔で答えてくれました。

テレビでは、お年寄りがなくなったニュースが流れていました。